

2016年最初のメルマガをお届けします。本年もご愛読いただきますよう、
よろしく願いいたします。現在会員登録数1,869人さま。次号は2月20日
発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

- 【1】お知らせ
- 【2】コラム
 - 《1》この本読んだ？
 - 《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する
 - 《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 65
 - 《4》行って来ました！
- 【3】全国のイベント紹介
- 【4】プレゼント

■ [1] お知らせ ■

● 「日産 童話と絵本のグランプリ」受賞作品原画展

当財団主催「第31回 日産 童話と絵本のグランプリ」（平成26年度実施）
の入賞作品の原画展を開催しています。3月上旬に予定しています第32回
（平成27年度実施）グランプリの発表後は、新しい入賞作品の原画に展示
替えします。

日 時：開催中～3月27日（日）*ただし、国際児童文学館の開館日時

場 所：大阪府立中央図書館 国際児童文学館（東大阪市荒本）

入場料：無料

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募って
います。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充
てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

■ [2] コラム ■

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

『ぼくが弟にしたこと』 岩瀬成子著 長谷川集平絵 理論社 2015年11月
対象年齢：小学校中学年以上

あらすじ：小学6年生の麻里生（まりお）は、母と弟の森生（もりお）と三人暮らし。母は三年前に父と離婚したが、父は麻里生に暴力を振るっていた。ある日、麻里生は森生が自分のジグソーパズルを勝手に触っていたのを見て怒り、何度も殴る。そこから、麻里生は自分と父の関係について考え始める。学校では、父と義理の母、義理の妹と暮らしている黒田君が「子どもの運命」について語り、麻里生の考えを刺激する。

Y：父親から受けた暴力を弟にしてしまう麻里生が、そこから抜け出そうとする様子が鋭く、かつ丁寧に描かれている作品で、テーマも描かれ方も現代社会に切り込む作品だと思って読みました。

T：子どものためを思っているという建前で、子どもに説教をしたり、暴力を振るう父親像は、親という立場にあるものが子どもに持ち得る権力構造を描いていて、自分の身を振り返ってドキッとしました。

Y：そういう意味では私は麻里生と弟の力関係に自分と妹を重ね合わせてしまいました。

T：異なる環境ながら、大人たちの都合で「家族」が変容させられた麻里生と黒田君。二人がポツポツと語り合う中で、黒田君が、「子どもの運命」だと諦めていた自分の進路について、思いを義理の母に伝えてみようという気持ちになっていく過程が、運命を切り抜ける一つの方法を子どもに示していると思いました。

Y：同じように、麻里生も、父に再会することで変化します。

T：殴ったことを正当化して語る父に、麻里生は、自分は父親とは違うと思います。別れ際の「次第に人混みにまぎれていく父は特別な人には見えなかった。」が麻里生の気持ちを巧みに語っていると思いました。

Y：実は私はこの作品を「毎日新聞 大阪版」連載時に毎日楽しみに読んでいました。その時のタイトルは「蝶々の木」でした。ジグソーパズルの絵には蝶々が群れ飛んでおり、麻里生に殴られてから、森生が居場所になっていたのは、たくさんの蝶々が集まる木の下でした。

T：作品全体のイメージがつながり、森生を含めたさまざまな視点で読めるタイトルで、蝶々の木の象徴性を考えることができるという意味でも納得できます。手にとってもらうためのタイトルと作品を象徴したタイトル。難しい問題です。

Y：挿絵は長谷川集平さんです。新聞連載当時も同じ挿絵でしたが、子どもたちの感情の揺れや深い思考が読み取れる絵で作品にぴったりだと思いました。

* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第5回「水仙月の四日」

〈水仙月〉をめぐって

〈ひゅう、ひゅう、さあしっかりやるんだよ。なまけちゃいけないよ。ひゅう、ひゅう。さあしっかりやっておくれ。きょうはここらは水仙月の四日だよ。〉

童話集『注文の多い料理店』に収録され、〈一九二二・一・十九〉の日付を持つ本作は、赤い毛布をかぶって町から村への家路を急ぐ一人の少年が、途

中凄まじいまでの雪嵐に見舞われる物語です。雪嵐を起こすのは、雪婆んご、雪童子、雪狼という精霊たち。今日は〈水仙月の四日〉で、雪の精たちにとってはこのあたり一帯に今冬一番の大雪を降らせる特別な日なのです。

〈わが国の雪嵐をえがいた文学作品として当然最高のもの〉(寺田透)という高い評価がある一方、本作で少なからず読者の関心を集めてきたのは、美しいが妖しげな響きをも放つ〈水仙月の四日〉とはいつかというもの。制作年次をもとに、作中の〈日曜日〉を実際の暦に求めて12月4日とする説、柳田国男『遠野物語』中の「雪女」との類似から小正月、すなわち1月とする説、冬に別れを告げて春を呼ぶ物語の構造から、翌日に立春を迎える2月4日とする説、東北の水仙の開花・終雪時期をもとに4月とする説など、諸説入り乱れています。また、〈水仙月〉は賢治の造語であり、特に人間の側の暦は当てはめられないというものもあります。

そのなかで、古代中国の花暦「花信風」を取り上げるのは土岐理和子氏です(『水仙月の四日』とはいつか)1997年)。氏は、『中国文学歳時記』(黒川洋一著)から、〈一月初めごろ(小寒)から、春も終わりの四月末(穀雨)までの四か月間、つぎつぎに花が咲いては散ってゆく。その花の消息が花信であり、十五日を一気とし、さらに一気を三候に分かって、毎候五日に一花の風信をもって応じたものが「花信風」であると紹介しつつ、小寒が陰暦十二月の節で、陽暦の一月六日頃から二十日までとなること、それを「花信風」小寒の〈梅花〉〈山茶〉〈水仙〉の三候に分けると、三候は一月十六日から二十日までとなり、つまり本作に付された日付〈一月十九日〉は〈水仙〉の四日目にあたることを指摘しています。実に興味深く、スリリングな論究です。

12月から4月まで、諸説ある「水仙月」。「水仙」の学名Narcissusは、完全な美しさを誇ったギリシャ神話の美少年ナルキッソスに由来します。1月という苛烈を極める雪嵐にあまりの美を見出したからこそ、賢治には〈水仙月〉という造語が思い浮かんだのではないのでしょうか。(ペ吉)
(本文の引用は、角川文庫『注文の多い料理店』によりました。)

《3》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 65

その9 おはなしを語る(4) 語るポイント4

おはなしを語るというのは、一つの物語世界を聞き手に届けるということであり、声や表情や間から読み取れる内容、登場人物像、おはなしの背後にある意味などが含まれます。このような言葉で語られていないことを考えてみる方法として、おはなしグループの勉強会で、時に行うワークショップがあります。

それは、一つのテキストを5人ぐらいが輪になって、一人一文ずつ読んでいくという方法です。ただし、読んだ後に、次の文との間に入れる一文を加えて次に回します。間に入れる一文は、自分で考えて入れるのですが、情景描写でも、登場人物の描写やせりふでも、登場人物の行動に対する理由でも、いいこととします。

例えば、「むかし、ある山奥におじいさんと おばあさんが 住んでいました」「ある日、おじいさんが・・・」という間には、「その山はとても深くて、おじいさんとおばあさんの家のまわりには木しか見えませんでした」と入れてもいいですし、「とても貧乏でしたが、二人とも毎日一所懸命働いていました」でもいいですし、あまり考えすぎず、思いついたことを入れていきます。

これは、グループで行間を読む試みをしていることになり、その作品世界をいかにイメージしているかが、加える文によって言語化されることとなります。他の人の加えた文によって、そのおはなしに対する新しい発見があることもあれば、違和感を持つこともあると思います。それらを話し合ってみることで、作品世界への理解が深まり、それが語り方に反映されることとなります。また、文を加えてみることによって、元の話がいかに、無駄をそぎ落とされて作られているのかに気づくこともあります。

「このおはなしの人物像は?」「テーマは?」を話し合うのも意義深いですが、一文を足しながら語っていくというのはゲームのようで笑いがたえません。楽しみながら、おはなしの理解が深まるという点でぜひ、おすすめしたい実践方法です。

*次号は「その9 おはなしを語る(4) 語るポイント5」の予定です。
質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思います。(Y)

《4》 行って来ました!

伊丹市立美術館で3月6日まで開催されている展覧会「ドーミエどーみる? しりあがり寿の場合」に行ってきました。

風刺画で知られる19世紀フランスで活躍した画家オノレ・ドーミエ(1808~1879)のリトグラフや彫刻約80点と、漫画家しりあがり寿(1958~)のドローイング約20点が展示されています。

会場は2階のフロアと地下のフロアに分かれており、最初の2階フロアでは、主にパリの風俗や市井の人々の日常を切り取った場面の絵が展示されています。夫婦や家族、独身男、乗合馬車、万国博覧会などをテーマにして身近に感じられます。中にはシリーズになっているものもあり、マンガを読むように楽しめました。

地下フロアでは、主に時事問題や政治家などを風刺した絵や、ブロンズ像が展示されています。国王の姿が洋梨として描かれていたり、ラタポワールという想像の人物が帝政復活を目指す煽動家として描かれていたりする絵もありました。絵にはユーモアにあふれた解説が一つ一つつけられているので、時代背景をよく知らなくてもどういう意図で描かれているのかがわかります。

ドーミエの絵の間には、しりあがり寿がドーミエの絵に触発されて描いた、墨の線で描かれた風刺画が並びます。ドーミエのパリのお上りさんが大量に

買い物する絵、万国博覧会で新式の改札が通り抜けられない人の絵、政治家ナルシスが泉に映る自分の姿にうっとりしている絵が、しりあがり寿によって現代の「爆買い」や、ICカードのチャージ不足で響盛を買っている人や、「自撮り」のナルシストを諷刺する絵としてパロディ化されています。それぞれの絵を見比べて、思わず笑ってしまいます。国や時代や描かれる対象が違っても風刺画には共通するおもしろさがあると感じました。(K)

【3】全国のイベント紹介

● 大阪府子ども文庫連絡会 公開講座

やっぱり図書館が大事Part24 「未来の図書館のために今、できること」

講師：猪谷千香（文筆家、ハフィントンポスト日本版記者）

日時：2月9日（火）午前10時～12時 講演会 午後1時～3時 交流会

会場：大阪市立中央図書館 5階会議室（大阪市西区北堀江）

定員：250人 交流会は60人

参加費：無料 資料費：100円 申込み：不要

主催：大阪府子ども文庫連絡会

共催：大阪市立中央図書館

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『ぼくが弟にしたこと』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガNO.65プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ(5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は2月10日(水)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

“社会問題”となったアイドルグループの分裂騒動、多くのファンの声もさることながら、新聞（スポーツ紙ばかりでない）の1面を飾り、首相コメントが載るに至っては、彼らの“自由”の狭さを考えてしまう…。

脚下照顧、私たちの財団もやはり“自由”は狭い。それでも5人のメンバーを支えてくれる多くの人たちがいる。我らも強く力を合わせ「何があっても前を見て進みたい」のだ。いえ、勘違いはありません…。(A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメルマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
